

中播磨地域

「地域の力で元気みなぎる中播磨の農林水産業の実現」

I 施策の展開方向

中播磨地域は、兵庫県南西部に位置する南北66km、東西45kmに及ぶ地域で、県土の10.3%を占め、北部は中国山地に接する中山間地域、南部は播磨平野から瀬戸内海(播磨灘)に接し、家島諸島もある多様な地勢を有する地域です。

当地域は北部を中心に約75%が耕地と森林ですが、臨海部は播磨臨海工業地帯を形成しています。

農林水産業は、温暖な気候の下、豊かな農山漁村において安定的な経営がされていますが、全国的な傾向と同様に、都市化と生産者の高齢化により産地規模が縮小しつつあります。

一方で、姫路城をはじめとした豊かな観光経済が好調なことから、これらの観光資源を活用し、農林水産業に携わる人々が、自らの職業を誇りに、いきいきと働き、集落等での地域活動を活性化させる中播磨を目指しています。具体的には、観光等で中播磨を訪れた人々には、自然や農林水産業に「ふれる」機会、豊かな農林水産物を「買う」機会、美味しく「味わう」機会、さらには心地よく「滞在する」機会を提供し、中播磨を楽しみ、好きになり、また訪れたい、住んでみたいと思えるような地域となるよう取り組んでいます。

II 主な取組内容

推進項目1 人と環境にやさしい農業の推進と地域の特色・立地を活かした農業の展開

中播磨地域の農業は、水稻・麦等の土地利用型作物が中心で、そのほか園芸作物として施設栽培となる葉物野菜、トマト、いちご等が生産されています。あわせて、地域特産物として太市のたけのこ、姫路のれんこん、網干メロン、ゆず、もち麦等の栽培もされており地域住民に親しまれています。



スマート農業技術(ドローン)



高設いちご栽培

そのような農業生産を持続的に続けていくためには、継続的な担い手の確保・育成が必要です。そのため、地域農業の担い手である認定農業者等の個別経営体や集落営農等の組織経営体に対しての経営力強化を図るとともに、ドローンや栽培管理システムの活用など各地域の営農課題に対応したスマート農業技術の導入を推進し、効率化・省力化の実現を図り、持続可能な農業を進めます。また、次世代を担う経営者の確保・育成のため、親方農家や関係機関と連携し、新規就農者の生産技術習得と経営の早期安定化についても支援します。



新規就農者確保のための相談会



新規就農者向け経営研修会



有機農業者の先進地視察

中播磨地域においても、人と環境にやさしい農業の推進に向けて、堆肥の利用や緑肥による土づくり技術と、化学合成された肥料及び農薬に過度に依存しない省力的かつ実用的な技術の導入を促進します。有機農業に対しては、意欲の高い生産者やグループの技術確立及び体系化を進め、地域と有機農業者が連携する持続可能な仕組みづくりを推進します。

夏季高温に伴う収量減少や品質低下に対しては、高温耐性品種や対策技術の導入を推進し、環境に対応した農業を支援します。また、管内の種子生産組合では、高温耐性水稲である兵庫県オリジナル品種「コ・ノ・ホ・シ」の種子を県下で初めて生産し、持続的な生産に向け後押しをしています。



緑肥で排水改善と土づくり



有機栽培の新技术導入支援



高温耐性品種「コ・ノ・ホ・シ」

策定された「地域計画」に基づき、担い手への優良農地の集積・集約化を推進し、担い手の効率的かつ安定的な農業経営の実現を支援します。

農地の未整備地域においては、農地整備事業を推進するとともに、整備後相当年を経過した地区においても、農地の大区画化や用排水路の管路化（パイプライン化）、暗渠排水の整備を推進します。更なる効率的な農業の実現に向け、スマート農業や野菜等の園芸作物の栽培にも対応する整備を進め、担い手の確保につなげます。



農地整備着手前（市川町屋形地区）



農地整備施工後（市川町屋形地区）

推進項目2 需要に応える持続可能な畜産業の推進

肉用牛の肥育経営では、飼料費の抑制、生産技術の向上、後継者の育成等により個々の経営ビジョンに応じた支援を行うとともに、肉質等の基準をクリアした但馬牛の生産を図ります。

繁殖経営では、適正な交配を推進する交配種雄牛助言サービス（MSAS）の活用や子牛育成技術の向上により、経営の向上を図ります。

酪農では、省力化、生産性向上を目指し、搾乳ロボット導入、飼養管理技術の向上や自給飼料の利用拡大を支援します。

養鶏では、地域の耕種農家等との連携により、飼料用米の生産と流通体制の整備を進め



姫路和牛

るとともに、飼料用米給与を特長としたブランド卵の販路拡大を推進します。

全畜種において、夏場の高温による生産性や品質低下などの低減を図るため、畜舎環境の改善や飼養管理方法の見直しなど、アニマルウェルフェアに配慮した暑熱対策を推進します。



但馬牛の人工哺育技術



サイクロンファンと細霧冷房を組み合わせた暑熱対策

推進項目3 資源循環型林業の推進と木材利用の拡大

戦後、造成された人工林資源の成熟化に伴い、林業経営に適した地域の人工林において、森林施業の集約化、高密度な路網の整備や高性能林業機械の導入等を推進し、これまでの搬出間伐に加え、主伐・再造林の推進と原木生産体制の整備に取り組み、林業経営の効率化・生産性向上を図ります。

また、植林後のCO₂吸収効果や県産木材の利用による炭素固定効果など森林・林業が果たす役割を啓発し、植林・保育・伐採・利用の林業サイクルが実現する「資源循環型林業」を目指します。

長期的な木材価格の低迷による林業収益性の悪化に伴う手入れ不足の条件不利地にある人工林では環境保全を重視し、森林環境譲与税等を活用した間伐の取組を推進するとともに、森林経営管理制度を運用する市町と連携を図り、森林管理や施業を行う森林組合・林業事業者の担い手の確保・育成を図ります。

木の良さを体感できる場として、図書館・認定こども園等の教育施設や介護施設など市町と連携し、公共施設や民間非住宅建築物の木造・木質化を推進します。また、「脱炭素社会の実現に資する等のための建築物等における木材の利用の促進に関する法律」に基づき策定した「木材利用促進方針」を踏まえ、地域住民や次代を担う子ども達に脱炭素への取組や木材利用の意義の理解・意識醸成を図り、川上から川下までの関係者の連携の下、更なる県産木材の利用拡大を図ります。



部分伐採と搬出間伐を組み合わせた森林整備（姫路市）



町内産木材を活用した図書館（神河町）

推進項目4 豊かな海と持続的な水産業の実現

「豊かな海の再生」を実現するため、漁業者による海底耕うんやカキ殻散布等をはじめとした豊かな海創生活動による底質改善や浅場、藻場等の生物生息環境の保全・回復等の取組を推進します。

海域の生産力の底上げを目指し、家島諸島周辺海域に魚介類の産卵・育成場（藻場）等の機能を有する地元石材を活用した増殖場の整備、海底の有機物を分解し、栄養塩類の放出が期待されるナマコやクマエビ、資源状況や漁場環境に適した魚種の放流等の生態系との調和を保った栽培漁業を展開します。

持続的な水産資源の利用に向け、科学的な資源調査に基づく漁獲可能量の設定等、新たな資源管理システムにより、持続的な水産資源の利用に向けた資源管理を推進します。

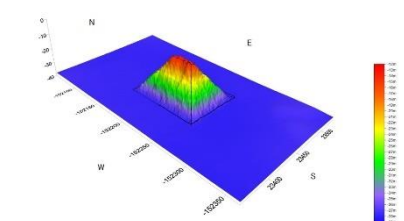
また、遊漁者に資源管理に対する理解を求め、公的規制の遵守を図るための啓発活動を推進します。

収益性の高い養殖業の確立を目指し、カキ等の二枚貝やサケ科魚類（ローカルサーモン）の新技术の開発と普及を総合的に推進します。

さらに、燃料費や資材費が高騰する中、漁業コスト低減のための省エネ型漁船や機関等の導入、漁獲物の高付加価値化や就労環境の改善を図るための高鮮度保持設備や省力化機器等の貸与事業により、収益性の高い漁業経営を実現し、漁業所得の向上を図ります。



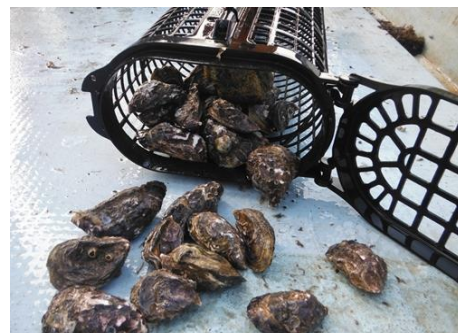
石材礁に集まる魚群



石材礁の3D映像



カキ殻散布



カキのシングルシード養殖

推進項目5 ブランド力を活かした攻めの農林水産業の展開

農林漁業者等が自らブランディングを行っているぼうぜ鯖・華姫さわら・ゆず・網干メロン・姫路のれんこん・もち麦・太市のたけのこ等の地域特産物についても、認証食品と併せてPRすることにより、有利販売・販路拡大に結びつくよう推進します。

最新の食品衛生・食品安全に配慮して整備された食肉センターでは、EU域内、米国、豪州、中国、東南アジアや南米等へ向けた輸出認可を受けた施設として、神戸ビーフを筆頭に和牛肉の輸出量が順調に伸びており、今後ともその優位性を活かしながら、広域の和牛集散市場としての位置づけを確保し、更なる輸出拡大を目指します。



ぼうぜ鯖



華姫さわら



地域特産物の一例

(左上) レンコン、(左下) 網干メロン、(中央) 太市のたけのこ、(右上) いちじく、(右下) ゆず



網干メロンの消費拡大に向け地元高校生と連携



低樹高ゆず栽培

推進項目6 食の安全を支える生産体制の確保

農薬使用者等を対象とした農薬販売事業者、ゴルフ場、防除事業者への立入指導により、生産履歴記帳や農薬の安全かつ適正な使用を推進します。

農業経営の改善や危機管理対策等、農業者が適正かつ安全な農業生産を実現するための有効な手法として、GAPに関する情報提供や啓発指導等を行います。

畜産物の安全性と生産活動の持続性を確保するため、食品安全や家畜衛生、環境保全、労働安全、アニマルウェルフェア等の取組により、より良い生産工程管理を実現する畜産 GAP の啓発指導を行い、GAP 認証の取得を推進します。



重大家畜伝染病連絡協議会

県産水産物の安全を確保するため、アサリやマガキ等の二枚貝の貝毒蓄積状況や原因ブ

ランクトンのモニタリングを実施し、県民への適切な情報提供に取り組みます。また、より効果的にリスク管理できる貝毒監視体制の整備や、貝毒原因プランクトンの発生動向の把握等により、養殖業者の経営安定につながる取組を推進します。

家畜伝染病予防法に基づく検査や飼養衛生管理基準の遵守指導を強化し、家畜伝染病の発生予防やまん延防止を図ります。

また、口蹄疫、豚熱、鳥インフルエンザ等の重大家畜伝染病の監視診断体制を強化するとともに、万一の発生時、迅速に初動の防疫措置を実施できるよう防疫訓練や関係機関を参集範囲とする連絡会議等を実施し、防疫体制の強化を図ります。

推進項目7 農山漁村コミュニティづくりによる地域資源の管理

農村地域の多面的機能の発揮を促進するため、多面的機能支払制度等を活用し、農地や水路、ため池等の農業用施設等の地域資源の維持・保全に向けた支援を行います。複数の集落間での活動連携や非農家を含めた地域ぐるみの取組をより計画的に実施するため、中山間地域等直接支払制度において第6期対策から追加されたネットワーク化活動計画の作成を推進し、将来の農村 RMO の形成につなげていきます。



地域ぐるみの草刈り作業

農業・林業の鳥獣被害を防止するため、野生動物ごとの管理計画に基づき、捕獲等による適正な個体数管理、被害発生地域やその周辺での獣害防護柵設置による被害防止対策を行うとともに、狩猟者の高齢化が進む中においても獣害対策を継続的に進めていくため、捕獲等に従事する担い手の確保・育成を図ります。また、捕獲センサーの利用等によりスマートフォン画面を操作して捕獲できる檻の設置など ICT 技術を活用した効率的な捕獲を推進します。さらに、シカ肉処理加工施設「夢咲鹿工房」（姫路市夢前町山富）を拠点に、シカ肉の有効利用に向けた体制づくりを推進します。



ベテラン猟師によるわな猟マンツーマン指導（姫路市）

ぶどうやいちごなどの園芸作物におけるアライグマ等による被害防止のため、対策技術を検証するとともに、効果的な侵入防止対策を推進します。



地域住民による電気柵の点検



赤外線カメラでぶどう園に侵入を試みるアライグマを確認

推進項目8 地域資源を活かした農山漁村ビジネスの創出

長年にわたり培われてきた農村景観、豊かな自然環境、地域ごとの特色ある伝統文化を維持するため、引き続き多面的機能支払制度・中山間地域等直接支払制度の活用を推進します。

地域資源を活かす取組として、もち麦の加工・販売、ウリハダカエデの樹液から作るメ

ープルシロップやミツマタを原料とした和紙の制作等ふるさと納税の返礼品としての活用など地域経済の活性化につながるよう継続して支援を行います。



もち麦を使った加工品（福崎町）



ミツマタで制作した和紙とウリハダカエデ樹液100%のメープルシロップ（神河町）

推進項目9 農山漁村の防災・減災対策の推進

近年の局地的かつ記録的な集中豪雨等の自然災害から安全・安心な生活を確保するため、ため池の「定期点検」や「耐震調査」等の実施結果を踏まえ、防災・減災対策上、緊急性が高いと判断されたため池については早期改修に努めます。また、井堰や樋門、水路についても機能診断を行い、状況に応じて施設の長寿命化あるいは改修整備を行うことにより、防災・減災対策を推進します。



ため池の防災パトロール

ため池の点検等により対策が必要と判断された場合、管理者による保全計画の作成や必要な措置の実施、ハザードマップの作成・周知等による情報の提供や防災知識の普及・啓発を進め、住民の防災意識の喚起を図り、地域防災力の向上を図ります。



改修中のため池（姫路市相合池）

山地では、山地災害危険地区の着手率を向上させ、治山ダム等の重点整備を進める等、「山地防災・土砂災害対策」を引き続き推進するとともに、森林整備事業を積極的に実施し、健全な森林を育成することにより、森林の公益的機能の維持増進を図ります。

漁港では、生産・流通機能の強化のため、引き続き施設整備を推進するとともに、老朽化した施設の長寿命化を計画的に推進します。また、近い将来に発生が懸念される南海トラフ地震や近年の気候変動による影響を考慮し、津波や高潮などの自然災害から地域住民の生命や財産を防護する防災対策を推進します。



治山ダム等の整備（神河町新田地区）



治山工事現場見学会

推進項目 10 豊かな森づくりの推進



人家裏山等の危険木伐採実施前
(神河町鍛冶地区)



人家裏山等の危険木伐採整備後
(神河町鍛冶地区)

公的支援により人工林の間伐等、森林管理を徹底する「新ひょうごの森づくり」や森林の防災機能の強化を図る「災害に強い森づくり」を推進するとともに、令和元年度から導入された森林環境譲与税を活用した、山間奥地等の条件不利地の森林整備等、市町の取組を支援します。

また、保安林制度や林地開発許可制度の適正な運用により、無秩序な立木伐採や森林開発を抑制します。

近年、被害が沈静化していた松枯れでは、被害のぶり返しが見られることから、保全すべき公益的機能の高い松林について引き続き適正な防除対策を推進します。

これらの取組により、森林の持つ多面的機能の維持向上、防災機能の計画的な強化や適切な保全を図ります。



林地開発許可制度による開発指導 (市川町浅野地区)



地上散布による松くい虫予防対策
(神河町根宇野地区)

推進項目 11 「農」と多様な分野との連携強化



農業と福祉のマッチングの取組



姫路市農林漁業まつりへの出店

域内における「中播磨農福連携協議会」を通じた情報発信や農業と福祉のマッチングの取組を進めます。農福連携技術支援者による農業技術、作業支援等の充実を図り、新たなチャレンジとして漁業、林業分野での連携を推奨します。

漁協が運行させる大型漁業見学船を活用した漁業見学体験ツアー、漁協やカキ生産者の直売所や定期的に開催される日曜市等による「播磨のさかな」の魅力発信や地元水産物を活用した加工品の開発等により来訪者と地域水産物のファンを増やす取組を支援します。



さわらはなつぎ網漁業見学



漁業見学船



小型底びき網漁業見学

推進項目 12 県民とのつながりで育む食と「農」



カキフェア



網干魚吹津かき祭り

消費者が市場流通、直売所、産地直送（宅配）等、多様なチャンネルを通じて、県産農畜水産物等を積極的に選択して購入できるよう支援し、県産県消を推進します。

有機農業実践者等の産地直送販売等の取組を支援するとともに、JAの大型直売所等を拠点とした6次産業化の推進や小規模農家の販売の場の確保と地元消費者等との結びつきを強め、生産者と消費者の顔の見える関係づくりを推進します。

ボランティアの受入れや援農を含む農業体験活動や小学校等への出前授業など食育活動に取り組む農業者等を支援するとともに、「農」と食に関する情報発信をさらに高めることにより、地域特産物や地域農業に対する理解と愛着を深め、地産地消につなげます。

食農教育として、安全・安心な農畜水産物の大切さ、身近な農林漁業への理解を促進するため、「おいしいごはんを食べよう県民運動」等を推進します。

「漁業見学ツアー」、「播磨のさかな」や「播磨のかき」といった地域の水産物の魅力を発信する各種イベントを支援し、水産物の消費拡大を推進します。



もち麦麺づくり
(小学校での出前教室)



農業青年クラブ出前授業でみかしほ学園の食農教育活動とコラボ

推進項目 13 県民への安定的な食料供給

市場流通では、コールドチェーン化による食の安全・安心の確保、耐震化による物流の強靱化等を目指す姫路市中央卸売市場が、移転整備により本格稼働しています。

各地域の市町や関係機関と連携を強化して、特徴的な産地・品目の将来像を描き、その実現に向けて、生産・加工・流通・消費を結びつける新たな仕組み（生産から消費を結ぶ仕組み）づくりを推進するとともに、消費者等が魅力を感じる商品づくりによる販路の拡充と新規開拓に取り組める体制づくりを支援します。

また消費者が適正な食品表示を基に食品を選択できるよう、食品表示法に基づく品質表示等について、食品関連事業者や消費者への啓発を行うとともに、食品表示に関する監視や指導等を実施します。



姫路市中央卸売市場



食品表示にかかる巡回調査

Ⅲ 成果指標

指標名	R6 年度 (現状)	R12 年度 (中間目標)	R17 年度 (目標)
みどり認定取得経営体数 (件)	3	15	30
土地利用型作物におけるドローン (防除、施肥、播種)活用面積 (ha)	239	300	500
野生鳥獣による農林業被害額 (百万円)	49	39	31
山地災害危険地区の着手状況 (箇所)	509	539	564
漁場環境改善面積 (ha)	310	322	328
生産性の向上や管理の省力化が図られた 農地面積 (ha)	295	355	405
ため池防災工事により安全性向上に着手 した箇所数 (箇所)	22	53	78